

関節リウマチに橋本病をともなった 巨大副腎奇形腫の1例

の野 っ津 かず和 み巳^{1,2)} なか 田 のり典 子^{1,3)}
なが 永 さわ 澤 あつ 篤 し司²⁾ なび 並 か 河 さと 哲 し²⁾

キーワード：副腎奇形腫，橋本病，関節リウマチ

要 旨

関節リウマチ加療中に、右副腎に巨大腫瘍を認めた1例を経験した。症例は70代，女性。右副腎腫瘍精査目的で入院した。副腎機能は正常，切除後の病理所見は奇形腫であった。経過中に，耐寒性の低下，嗄声などの症状があり，橋本病にともなう原発性甲状腺機能低下症の合併も認めた。橋本病と関節リウマチの合併は比較的高頻度に認められるが，副腎腫瘍の合併はまれである。また副腎原発の奇形腫はさらに極めてまれであり報告した。

はじめに

関節リウマチなどの自己免疫疾患では，橋本病などの自己免疫性甲状腺疾患を比較的高率に合併することがよく知られている。また副腎に自己免疫機序が働いて，副腎不全を発症する，いわゆる自己免疫性アジソン病を合併する症例のあることが欧米では報告され，多腺性自己免疫性内分泌症候群 (polyglandular autoimmune syndromes: PGA) として分類されている¹⁾。日本では自己免疫機序によるアジソン病はほとんど経験すること

がなく，PGA として副腎疾患を経験することはほとんどない。自己免疫性甲状腺疾患に1型糖尿病を合併する，いわゆるPGA3型が日本ではまれに報告されている。また副腎に腫瘍を認めた場合には，下垂体，副甲状腺や甲状腺に腫瘍をともなっている場合があり，注意が必要である。これら複数の内分泌腺に腫瘍をともなうものは多発性内分泌腺腫症 (multiple endocrine neoplasm: MEN) として分類されている^{2,3)}。今回の症例は，それらのどちらにも属さない症例であり，巨大な副腎腫瘍で，それが奇形腫と診断された極めてまれな症例であった。

症 例

症例は70歳代女性で，主訴は右副腎腫瘍の精査である。家族歴に自己免疫性甲状腺疾患やPGA，

Kazumi NOTSU et al.

1) 大学前のつ内科クリニック

2) 島根県立中央病院内分泌代謝科

3) 松江生協病院内科

連絡先：〒690-0825 松江市学園2丁目27-17

大学前のつ内科クリニック